

牛乳パックリサイクル物語

緑の地球を子どもたちへ

牛乳パックのリサイクルを通じて、
子どもたちに「もったいない」と思う心を伝えたい。
そして、一人ひとりの行動が、緑の環境づくりにつながるようにと
願い、1985年に子育てを考える主婦グループが中心となって始め
られたのが牛乳パック再利用運動です。
牛乳パックを洗って、開いて、乾かすという小さな行為が
世界でも例のないリサイクル運動へと全国に広がり、
今にいたっています。



捨てればゴミ、活かせば資源

1990年、全国に取り組みに学びながら、青森県内の生協がまとまって、牛乳パックのリサイクルを開始しました。当時は、ほとんどの牛乳パックがゴミとして処理されていた時代です。

牛乳パックは、長い繊維を含む良質なバージンパルプが原料となっているので、様々な紙製品にリサイクルできることを伝えるために、「牛乳パックのはがきづくり」を各地で開催し、リサイクルの大切さを呼びかけました。

青森県内の生協が30年間に回収した牛乳パックの枚数は、約5597万枚となっています。

全国の使用済み紙パックの回収率では、29.7%（2020）とまだゴミになっている方が多いのが実態です。リサイクルの大切さを伝えて、くらしの中にしっかり根付かせたいですね。



切り抜いた絵や花びらなどを一緒にすきこめば、
あなたらしい手すきはがきが作れます。ぜひ、チャレンジしてみてください。

余ったパルプ液は、固く絞ってラップに包
んだり、ビンに入れて保存もできます。

(牛乳パックのはがきの作り方はこちらです。 <http://www.packren.org/craft/index.html>)

使ってこそ、「リサイクル」



ふだんのお買い物で、環境に配慮した商品を選んでいますか？牛乳パックを原料にして作られた商品には「牛乳パック再利用マーク」や「エコマーク」がついています。現在、このようなマークがついている商品は、トイレトペーパー、ティッシュペーパーのほか、フラットファイル等の文房具、おしぼり、印刷用紙などなど…。

牛乳パックリサイクルの広がりとともに、再生紙使用商品の数も増え続けています。

集めるだけではなく、再生品を使うこともリサイクルにとっては重要なことです。生協では、「CO・OPコアノンロール」や「CO・OPグリーンキーパー」などの再生紙使用商品を案内しています。生協の店舗やカタログで探して、利用してくださいね。



牛乳パック リサイクルQ&A

Q

牛乳パックは何から出来ていますか？

A

牛乳パックなどの飲料用紙パックは、北欧やアメリカで計画植林された針葉樹（スギや西洋マツ）の、間伐材や製材されたときに出る端材等を原料に作られています。繊維が長くとても上質なパルプで、さらに両面にポリエチレンフィルムがラミネートされているので、液体物を入れる容器として、1970年代から日本に普及して来ました。しかし、このラミネートフィルムがネックで、最初の頃は牛乳パックは古紙回収の対象とならない禁忌品だったわけです。



Q

牛乳パック何枚で
トイレトペーパー1個が出来ますか？

A

1kg約30枚で5個のトイレトペーパーができますので、牛乳パック6枚で1個のトイレトペーパーができることになります。

